

第13回 市民参加懇談会コアメンバー会議
－市民参加による政策検討会議－
議事録

1. 日 時：平成15年8月28日（木） 19：00～21：00
2. 場 所：虎の門三井ビル2階原子力安全委員会 第1、2会議室
3. 出席者：木元座長（原子力委員）、森嶋座長代理（原子力委員）、碧海委員、
新井委員、井上委員、岡本委員、小川委員、小沢委員、蟹瀬委員、東嶋委員、
松田委員、吉岡委員
（原子力委員会）竹内委員
（内 閣 府）大熊統括官、藤嶋参事官、後藤企画官、犬塚参事官補佐
4. 議 題：（1）「市民参加懇談会 i n さいたま」の開催計画について
（2）次々回の市民参加懇談会の開催について
（3）その他
5. 配布資料
資料市懇第13-1号 「市民参加懇談会 i n さいたま」開催計画（案）
資料市懇第13-2号 次々回の市民参加懇談会の開催候補地について
資料市懇第13-3号 第12回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録

6. 審議事項

- （1）「市民参加懇談会 i n さいたま」の開催計画について

○事務局より、資料市懇第13-1号について説明した。

（木元座長）

- ・ 次回開催予定の「市民参加懇談会 i n さいたま」については、皆様方のスケジュールを伺わせていただき、まず日時を決めた。その中で適当な会場はどれくらい押さえられるか探った。その結果、10月14日火曜日の13時から16時半、「ラフレさいたま」に決めさせていただいた。もう少し早ければ別のところが空いていたかもしれないが、この段階では土日はまったく空いていなかった。
- ・ 次にテーマだが、小沢委員から前回のコアメンバー会議で、「なぜ停電が起きたのか」とか、「なぜ起きなかったのか」というご提案があり、なかなかおもしろいということで、それを入れた。その後ファックス等でコアメンバーの皆さんからご意見を伺い、主題としては他に、「電力のセキュリティを考える」という案も挙がった。「原子力発電所停止と電力のセキュリティ」、「この夏の電力危機を考える」、「電力供給安定性を高める方途」という案も挙がった。副題としては「電力の生産と消費、安定供給を考える」が挙がった。いろいろご意見が出たが、今回はどういうテーマにしたら良いか、あるいは副題に何かつけるとすればどういうものがあるか、その辺からご議論いただきたいと思う。日本の首都圏では大停電はもう起こらないように思う。アメリカでは大停電が起こったが仕組みが違ふようだし、原子力発電所がかなり動き出した。停電が起こらなかったということを契機に、エネルギーの供給セキュリティのことを考えるということになると思う。どういうテーマが良いか、ご意見ありましたらぜひお願いしたい。

(蟹瀬委員)

- ・ 資料13-1の中の4番目の「この夏の電力危機を考える」に、もう少しテーマを強く出して、「この夏の電力危機とは何だったのか」というような問いかけだと日本、アメリカ、カナダも含めてやれると思う。

(木元座長)

- ・ 「この夏の電力危機が何だったのか」ということから始めることによって、供給の形であるとか、電力会社の体制とか、いろいろなことが包括されて議論できるということだと思う。

(新井委員)

- ・ 副題がメインテーマになるのではないかとおもう。前回も言わせていただいたが、生産地と消費地の関係について考えるという観点が必要ではないか。さいたまでなぜやるかというのは、小川委員が主張されたと思うが、特に消費地から原子力立地点等について考えるという視点を前に出すことが良いのではないかと思う。

(木元座長)

- ・ 主題として、例えば今、蟹瀬委員が言われた「この夏の電力危機は何だったのか」にした場合、副題として「電力の生産と消費、安定供給を考える」をつけてみるというお考えでよろしいか。

(新井委員)

- ・ 逆ではないかと思った。副題がメインにならないのかと思う。

(木元座長)

- ・ 「電力の生産と消費、安定供給を考える」をメインタイトルとするということか。

(碧海委員)

- ・ 今のご意見に賛成だが、前回のコアメンバー会議で停電が話題になったときは、タイトルとして呼びかける場合に目を引くという意味で賛成したが、内容的にはこの副題がメインだと思う。蟹瀬委員が言われた「この夏」というのがあまり前面に出ると、この夏は非常に特殊だったわけだから、そちらの方向に話が行ってしまうのではないかという危惧がある。

(蟹瀬委員)

- ・ むしろ逆の方が良いと思う。この夏が特殊だった、というところが非常におもしろいし、自分がメディアにいる人間だから、そういうふうに物事をとらえがちなのだが、テーマというのはとっつきやすいテーマをつけるのが一番で、「電力の生産と消費、安定供給を考える」では人は来ないのではないかと、逆に心配になる。

(東嶋委員)

- ・ 蟹瀬委員の意見に賛成である。最初のタイトルは「この夏の電力危機」ということで、東京では起こらなくて、ニューヨークで起こったことはまた別の理由だが、どういう理由で起こったのかということを対比させたいということと、原子力発電所が東京電力の不正記載問題で停止したということが今回の夏の電力危機を引き起こしていて、改めて原子力発電所のセキュリティー—何か不祥事があると全部とまってしまう—ということが問題になっているので、それを前面に出して、副題で「安定供給」「セキュリティー」等を入れたらどうかと思う。

(木元座長)

- ・ ご意見が2つに分かれているが、いずれもねらいは同じだろうと思う。

(小川委員)

- ・ さいたまでやるということを考えると、「生産と消費」という観点は前面に出した方がいいと思っている。副題か主題かに強い希望はないが、「電力の生産と消費、安定供給を考える」はどちらかに入れたい。ただし、言葉が硬い感じがして、「この夏の電力危機は何だったのか」もまた硬いと思うので、組み合わせるなら「停電は起こらなかったが」が良いと思う。「停電は起こらなかったが」「電力の生産と消費、安定供給を考える」、この2つの組み合わせが良いと思う。

(岡本委員)

- ・ 心理学では、もしもテストというのがあり、例えば、「もしも1日が20時間になったらどうなるか」といったテストをして、いろいろなことを調べるやり方がある。そういうことから考えると、さいたまが消費地だから、例えば「もしもこの夏大型停電が起こっていたら何が困っただろうか」ということを考えてみるのも良いと思う。
- ・ 例えば、ちょうど私も停電の直後にニューヨークに行ったので調べてきたが、非常に意外なことは、普通は水と食糧だけあったら大丈夫だろうと思うが、電力がないと水もだめだし、手洗いも使えないということになる。案外10年前の電力の位置づけよりももっと重くなっていると思う。そのことに気づくということが大事だと思う。
- ・ もう一つは、東京や埼玉にいと何となく停電は起こらなかった、よかったと思っているが、実際にはいろいろな工場等に時間の調整などをお願いしており、決して苦勞なしに乗り切れたわけではない。事業者のそういう苦勞は消費者から見えないが、原子力発電所を停めてしまったことで、これだけの苦勞や圧迫があったということが少し分かる形になった方が良いという印象を持つ。
- ・ タイトルは「もしも停電が起こっていたら…」。副題は資料の一番下の段の「電力の生産と消費、安定供給を考える」。

(木元座長)

- ・ 飛びつきやすい言葉が最初に出てくると、一般の皆様のご参加が増えるかもしれないと思うので、「もしも」とか「この夏」とかそういうフレーズが活字としてあった上で、岡本委員が言われた副題などで、しっかりと押さえるところを押さえるという方法がよろしいのではないかと、皆様のご意見を伺いながら思った。

(松田委員)

- ・ 「この夏の電力危機は何だったのか」というのが普通の人にとっては一番入りやすいテーマだと思う。底流に流れるテーマとしては、新井委員が言われたことはしっかりと議論していかないといけないが、まず新聞等に出るときにはこのようなキャッチフレーズの方が普通の人には集まりやすいと思う。「この夏の電力危機は何だったのか」。

(木元座長)

- ・ 「もしも」を付けるというご意見があるが、どう考えるか。

(松田委員)

- ・ 「もしも」の方も悪くないと思うが、「この夏」という言葉にストーリー性があるような気がする。
- ・ 「もしも停電が起こっていたら」というのは、副題にしたいと思う。
- ・ 「電力の生産と消費、安定供給を考える」ということが底流として流れていくとおも

しろい。ディスカッションとしては、いろいろな人の声が出てきて、盛り上がり、普通の人が参加したくなると思う。

(木元座長)

- ・「底流」ということは、活字で提示しなくても、精神はこうだ、ということか。

(松田委員)

- ・コーディネーターもパネリストも、ディスカッションに加わる方たちも、そこをきちんと押さえていけば、必ずこのメンバーだったらそうなると思う。

(小川委員)

- ・埼玉で開催すると決めたときの議論が抜けてしまう気がする。確かに、我々は分かっているし、意識しているが、テーマに書かないと会場に参加する一般の方には意識していただけないと思う。テーマに「生産と消費」という言葉があると、なぜ埼玉なのか、埼玉には何も発電所がほとんどないが、原子力発電所などから供給されて電気が使えているというような埼玉の特徴を少しでも意識してもらえと思う。題名で埼玉の特徴を出したいと思うので、「電力の生産と消費」という言葉は、ベースに流れる考えの中にあるものではなく、前面に出したいと思う。
- ・座長のご意見にもあったが、主題は「停電は起こらなかったが…」、あるいは「もしも停電が起こったら…」、副題が「電力の生産と消費、安定供給を考える」が良いと思う。

(新井委員)

- ・両方合体できないか。小川委員と同じ意見で、せっかく埼玉で開催するのだから、前回の会議でも少し話したように、私自身が記事を書いてきた経験から、電力の生産地の地元の人たちの反発というのは、消費地において電気を作っていない人たちは何を言っているんだということである。消費地は生産地のことを考えてくれないというような感情的な問題が残っていると思われる。したがって、せっかく消費地の埼玉で開催するのだから、消費地でその問題を考えるということは何らかの形で整理して、また、蟹瀬委員が言われるように、電力危機という言葉が前面に出ると受けが良いとも思うので、両方うまく合わせることはできないだろうか。

(岡本委員)

- ・例えば、「もしも」という設問で一般参加の皆さんに何か事前に書いていただく機会を設けるとする。そして、不謹慎かもしれないが、何か賞を出したら良いと思う。意外な回答とか説得力のある回答等に賞を出す。例えば、「トイレの電化製品が使えなくなって、肛門科が盛況になったで賞」とか、いろいろなことが考えられると思うが、電力がないとこんなに困るということについて、どこまで気がつくかということは、案外一つのおもしろい実験になると思う。
- ・例えば「何が困ったと思いますか」と、一番困ったことから2番目、3番目まで書いていただくように設問を出せば、それを集計すると、大体皆さんが思いつくことがどの辺で、思いつかないことがどの辺かということが分かる。それを会場にフィードバックして、素材として使うこともできるかもしれないと思う。

(木元座長)

- ・岡本委員のご意見は、話の展開としては物すごくおもしろいと思う。例えばタイトルを別に決めた上で、「もしもあなたは停電が起きていたら、何が起こり、どうしまし

たか」ということを質問として出してご意見を寄せていただき、その結果を当日の資料等に載せておくと、第2部でのご意見が出やすいだろう。参考にさせていただき、何か工夫できると思う。

(碧海委員)

- ・ 一般の人の感覚として、この10月まで「この夏の電力危機」と思うか疑問だと思う。夏が始まる前には、確かに私の周辺の女性たちも心配していた。しかし、実際にはもう秋の気配が見えて、今は「何もなかったわね」ということで通り過ぎてしまっている。しかもニューヨークで大停電があったから、停電に関しては相当具体的な影響について見えてはいると思う。どういうことが起こるのかということは、非常に言葉は悪いが、良い例がそこに出てしまったとも言えるので、「この夏の電力危機を考える」というテーマが一般市民の、特に女性の感覚としていかがかと思う。
- ・ 電力危機は本当に関係者がすごく心配したし、私もある程度事情を知っていて、本当に心配した。今も心配してないわけではない。しかし、一般の人はどうか。

(木元座長)

- ・ 一般の皆様に思い起こしてもらって、「停電は起こらなかったが、あれは何だったのか」という形が見えてくればおもしろいと思う。

(蟹瀬委員)

- ・ 「電力危機とは何だったのか」と「と」を入れたいと思っているが、「と」が入ると振り返るという感じがすると思う。もっと過激にするなら「東京タワーが消えた日」と言えば良いと思う。そういうキャッチフレーズを考えるか。私はちょうど家の窓から東京タワーが目の前なので、夜のイルミネーションを消した日は結構印象深かった。大手ホテルのレストランの窓も暗くなったので、私も慌てて家の電気を消した。なぜかといううちの家の中が外から全部見えてしまうという理由で、節電するために消したわけではなかったが、そういうおもしろい、とっつきやすいマスコミ的なタイトルをつけようと思えばつけられないことはないと思う。

(新井委員)

- ・ 夜は今回の危機の場合でも停電はほとんどあり得なかったわけで、誤解を生じるのではないか。

(蟹瀬委員)

- ・ あれは全国で電気を消そうというシンボリックなイベントだった。

(新井委員)

- ・ そういうところでまた誤解があったのだと思う。

(蟹瀬委員)

- ・ そのように厳密に詰めるか、おもしろく引っ張るかということだと思う。

(新井委員)

- ・ 厳密ということではなく、重要なことだと思う。ニューヨークの停電と同様の現象が日本で起こるということはなかったんだと思う。

(木元座長)

- ・ もし東京タワーの話が出た場合、「それは現実はどうだった」と話はできると思う。

(松田委員)

- ・ 新井委員はパネリストで入っておられるので、蟹瀬委員との討論がおもしろくなるし、

碧海委員との討論がおもしろくなると思う。今回のパネリストがすばらしい方たちで、それぞれがこの場でもディスカッションが始まるのだから、本番になったらもっと議論されるのが楽しみである。私はこの日は行けないが。

(碧海委員)

- ・ 資料のパネリストは案の段階である。

(木元座長)

- ・ 小沢委員、今お聞きになっていてタイトルについてはいかがか。

(小沢委員)

- ・ 「なぜ停電が起こったか」、もしくは「なぜ起こらなかったのか」ということだろうが、「この夏」というのは、遅い。

(小川委員)

- ・ 「夏」が入ると少し古い感じになる。

(小沢委員)

- ・ ただ、「東京タワーが消えた日」というのが挙がったが。

(蟹瀬委員)

- ・ 少し刺激的に言っただけである。

(小沢委員)

- ・ ありきたりで刺激はないと思う。

(大熊統括官)

- ・ 全然主張するつもりではないが、議論の流れで少し視点を変えるという意味で、「埼玉で停電に備えてみると」というのはどうか。
- ・ 停電にならないように埼玉でどうできるのかということなら、生産と消費の問題も入るし、我々ができることは何か、できることは何でもやったらいいと思うが、それで限界は何かと考えるという意味で、少しひねってみた。議論のご参考までに。

(吉岡委員)

- ・ 主旨としては、ニューヨークを含む北米の大停電というのは非常に現代的な話であって、あれに類するようなことについて、もっと踏み込んで議論すれば良いと思っている。その意味では大熊統括官と同じような方向で議論すれば、非常に現代的なテーマだと私は思っている。
- ・ 実は本日の夕方まで福岡でエネルギー基本計画部会の広聴会に出ていた。8月20日の名古屋では蟹瀬委員とも一緒したが、本日は近藤駿介氏等が横に並んでいた。8月20日に事務局の方が説明した内容と、今日別の方が説明した内容が微妙に違っているのがおもしろかった。8月20日に北米大停電について説明をした経済産業省の方は、電力自由化とはそんなに関係がないのではないかなというような、そういう因果関係を結びつけるのは少し早計ではないかという趣旨の発言をしていた。その理由は、自由化よりはるか以前から系統の弱さとか、アメリカの停電が起こるリスクとか、そういうことは再三問題になっていた、自由化されたから起こったということではないだろう、あの地域あるいはアメリカの問題なのではないかというようなことを示唆されていた。私も基本的には同感だが、巷では自由化と大停電を結びつける、とてもいい加減な議論がいろいろ、特にテレビ等ではなされていて、たとえば自由化のおかげで電気事業者が増えて連携が悪くなったというようなことを言っているが、本当は電

気事業者は減っている。あるいはメッシュ型の送電についても、メッシュ型というのはベターだと、どこかが壊れても周りを回って回路があるからベターだと、ある研究所の方が言っているのを聞いた。しかし、テレビでは同じ研究所の人が、メッシュ型だから弱かったと言ったりする。このように議論が混乱している。

- ・今日の福岡の広聴会では、やや因果関係をにおわせつつも、詳細は不明であるという発言が事務局の方からあった。これだけわからないことが多くて、しかもでたらめなことがテレビで言われている。だから、いかにして停電が起こり、いかにして復旧するのかというのは、シミュレーションとしてきちんとやってみる価値は大いにあると思う。

(木元座長)

- ・今回の市民参加懇談会でそのシミュレーション的なものを踏まえながら、停電はどうして起こるか、起きたらどうなるかということを題材とするということか。

(吉岡委員)

- ・いかに停電を防ぐか。なぜ、今年の首都圏の夏は危ないとか言われたのか。どこがネックだと考えられていたのか。あるいはたくさん発電施設が停まると、火力は復旧が比較的短く済むが、原子力はそうではない。なかなか立ち上がらないと思うが、そういう復旧プロセスをどのようにするのか。

(木元座長)

- ・そうすると、安定供給という切り口から入っていても良いが、停電ということから入っていくという手法をとって見たらどうかということか。

(吉岡委員)

- ・そうである。記憶としては生々しいし、首都圏需給逼迫問題との関連でいろいろ皆さん考えられた。しかし、真実はよく分からないし、誤報が随分流されていると思う。ただ、その場合、メンバーにやや難がある。パネリスト候補にプロがいない。

(木元座長)

- ・プロというのは電力サイドという意味か。

(吉岡委員)

- ・電力サイドは中立性には難があるが、電力サイドと、もうひとりはそうでなく、より中立的な形で系統について議論できる人。そういう技術屋の方が良い。

(木元座長)

- ・系統についてというより、もっと大きな意味での生産者、生産地、あるいは消費地という自分たちのとらえ方、その中から電力は我々が要求するとどういう形で来るのか、そのときにはアメリカのようにグリッドを形成する方法とか、いろいろあるだろうが、そういった論議をされていく場合に、例えば参考人というか、過去の市民参加懇談会の様に、解説していただく方ということでお呼びしておくという方法もあるだろう。
- ・タイトルは吉岡委員だったら何とおつけになるか。

(吉岡委員)

- ・「大停電リスクを考える」。

(新井委員)

- ・系統の話は多分相当に難しい。今回の市民参加懇談会に現在出席予定の方々の中で、電気がどうやって伝わってくるかということのを、うまく我々に合理的に説明できる人

は1人もおられないと思う。したがって、系統の話をやるというのは、至難の業だと思う。不可能だろう。私も過去ずっと聞いてきて、文科系だからかもしれないが、とにかく電気の系統の話というのは極端に難しい話だと思っている。

(木元座長)

- ・ ご質問が出た場合に、参考として簡単にお答えできる方を用意することは必要かもしれない。
- ・ ニューヨークの大停電のとき、私はアメリカの西海岸にいて、グリッドに逆流してきたという話を聞いたが、こんな話は素人には分からない。だから、そこまで今日は論議をしたくないので、とにかくタイトルをある程度の大まかに2つか3つ決めて、後で投票していただくとか、そういう方法もあると思うが、井上委員はいかがか。

(井上委員)

- ・ 1つは東京をイメージしてテーマを考えるのか、ニューヨークのようなトラブルを想定してテーマを考えるのかという視点があるだろうと思う。普通私たちが生活していて停電というと、せいぜい分単位だろう。9分ぐらい、もしくは地域的でも1時間、2時間、でもニューヨークは何十時間、40時間だったか。そうすると、単なる停電というテーマとして考えたとき、入り口としても大きすぎる問題だろう。一方で東京の今夏のことを考えれば、停電のレベルで言うなら大停電だろうから、例えばニューヨークの大停電をイメージするようなタイトルが良いだろうし、電力危機という言葉の方が奥に入っていけるのではないかとも思う。簡単には決められない。

(小沢委員)

- ・ 節電のための「でんき予報」をやっていた感触で言う停電というのは、どの規模だったのか分からない。ニューヨーク大停電と同じようなものなのか。

(木元座長)

- ・ 同じようなぐらい、一時的には全部停まるというようなことまで考えられたと思う。回復の順番はあるにしても、可能性として。

(新井委員)

- ・ 地域性もあり、北米のような状況にはならなかったと思う。ただ、ある特定の地域は停めるということはあり得ただろうが。
- ・ 突然起こる停電と違って、予測された停電であり、身構えていたから、どこかに犠牲になってもらっての停電という可能性はあったと思うが、こんがらがってしまうことはなかっただろう。

(小沢委員)

- ・ 違う停電ということ。

(木元座長)

- ・ 停電理由が違う。こちらは停電が起こるかもしれないという予想の上でやっており、全然予想もしない停電がパッと来たあちらではまるっきり違うだろう。
- ・ 話の中でニューヨークの件は出てくると思う。だけれども、それはメインには置く状況ではない。ただ、日本の場合については考えていかななくてはいけないので、大変難しい。

(新井委員)

- ・ 停電が夜あるというふうにみんな思っているが、夜はまずほとんどあり得なかったの

だと思う。

(小沢委員)

- ・でも、脅かされていたのは、いきなり停電で、水も出なくなる、トイレの水も流れなくなる、というようなイメージだった。

(木元座長)

- ・夜、東京タワーの電気を消したりしたのは一つのパフォーマンスで、夜は電気が余っていたわけだから、本当は使ってもらっても構わなかったのだと思う。そういうことが分かった上で、電気というのは何だろうかと考えるのは意味があるかもしれない。

(碧海委員)

- ・ヨーロッパみたいに気温がどんどん上がったら、停電は起こり得たと思う。

(小沢委員)

- ・それは原発が全部稼働していても、ということか。

(碧海委員)

- ・何年か前にすごい猛暑だったことがあったと思う。あのときは東京で、たしか一夏で500万キロワット増えたと思う。

(木元座長)

- ・コーディネーターをお願いしている蟹瀬委員にお聞きするが、基本的にこういうことを話し合うという話が出てきたので、そういう場合にはこういうタイトルだったらやりやすいというご意見をいただきたい。

(蟹瀬委員)

- ・最初に言ったように、「この夏の電力危機とは何だったのか」とすると間口が非常に広くなる。しかも今話が出たように、通り一遍のマスコミの議論で事が済まされていたが、実際はこうだったという検証になる。確かに10月というタイミングは、遅いといえば遅いが、むしろあえて検証すると位置づければ、それはそれで成り立つ気もする。どのぐらい皆さんの記憶に残っているかという問題もあると思うが。
- ・埼玉に絡んで言えば、埼玉というところでやることに大きな意義を見出しているわけではないと思うので、それほど埼玉を意識する必要があるのかどうかというのは、個人的な疑問である。最初申し上げたように、テーマは今日の資料から選ぶというのが、今の議論を聞いていても、一番手っ取り早いのかなと、そして副題で「生産と消費」、「安定供給」と、「安定供給」というのはキーワードなんでしょうから、そういうものをつければ無難に落ち着くのではないかと思う。

(小川委員)

- ・サブタイトルについては、先ほどから埼玉とか消費地ということがかなり出ているので、「電力の消費地から安定供給を考える」というのはどうか。「生産と消費、安定供給を考える」ではなくて、「消費地から安定供給を考える」。

(木元座長)

- ・流れとして、そういうことになると思う。
- ・それでは、いろいろ案が出たし、ドッキングしてうまいタイトルが考えられれば、9月の頭までにある程度めどをつけたい。これまでの議論を基に、複数の候補案を作成しファクスでお送りしたい。お忙しいところ恐縮だが、お願いしたい。

(小川委員)

- ・ 候補案は3つぐらいにしてもらわないと、意見がバラバラになってしまうかもしれない。

(蟹瀬委員)

- ・ 2つぐらいで良いのではないか。

(木元座長)

- ・ では、事務局から候補案をお送りしたいので、よろしくお願いします。
- ・ 次に、座長報告について伺いたい。座長報告は、例えば敦賀で市民参加懇談会を開催したときには、敦賀でどういうことがあり、一番初めに軽水炉の原子力発電所が建設されたという経緯があって、今15基あるとか、そういったことを時系列的に淡々と報告し、なぜ敦賀で開催することになったのかということの説明を兼ねて、冒頭で報告した。それから、青森で開催したときには、青森の六ヶ所村はなぜ核燃料サイクルを導入したか。濃縮から始まって、再処理、あるいはMOX燃料までつくるとか、あるいは貯蔵があるとか、そういうことを話した。東京で開催したときは、これはずばり不正記載を考えるということだったから、不正記載について、何がいつ起こってどうなったのか、今どうなったのかということ報告した。
- ・ 今回の場合には、座長報告は果たして要るのか要らないのか、要るとすればどういうことをやった方がいいのかということになるが、もしやらせていただくとすれば、なぜこういうタイトルで、この埼玉で開催することになったのかという開催理由しかないだろうと思う。その方がスキッと短く報告できるだろうと思うので、そうさせていたきたい。

(碧海委員)

- ・ この前新井委員が言われたのだったか、「埼玉は発電所がない」と。

(木元座長)

- ・ 報告ではそういった詳細には触れないほうが良いと思う。

(新井委員)

- ・ 発電所はほとんどないと思う。自給率2%ぐらいだと記憶している。完全に消費地というところ。

(碧海委員)

- ・ 小さな発電施設はあるかもしれないが。

(小沢委員)

- ・ 埼玉と言っている時代ではないと思う。埼玉というのは、秩父でやるなら別だが、大宮あたりの、こういうところでやるのなら、埼玉ではない。

(小川委員)

- ・ だから、消費地ということだと思う。

(小沢委員)

- ・ 意識はそんな場所で埼玉の何とか、ということはないと思う。発電所がない、ただ消費地としての埼玉としては、なんてぶち上げて、大宮で言ってもピンと来ないだろう。

(小川委員)

- ・ ピンと来ないから、ピンとさせがいがあるのではないか。

(小沢委員)

- ・ そんなに埼玉、埼玉ってピンとさせる必要があるのか。

(小川委員)

- ・ 全然問題意識がないよりは、あったほうが良いと思う。

(小沢委員)

- ・ 問題意識がなくてもいいのではないか。

(吉岡委員)

- ・ 私も東京都と埼玉県の間に住んでいるが、埼玉人意識というのは、横浜人意識が希薄であると同じように、一般的には希薄であると思う。したがって特に埼玉にこだわるのではなく、大都市密集地であり、しかも都会的な情報がいろいろ飛び交って、理論的な、あるいは理屈っぽい最新の情報に基づく議論もできるというような、そういう設定で良いと思うので、埼玉というところにこだわることはないと思う。

(木元座長)

- ・ タイトルでこだわらなくても良いかもしれないが、発言によっては中身でこだわる状況が出てくるかもしれない。首都圏ということで、あえて埼玉をあまり意識しなくても良いかもしれない。
- ・ 冒頭の座長報告については、開催理由をごあいさつを兼ねてするぐらいの形にする
- ・ パネリストの候補としても一応皆様にお諮りし、碧海委員、新井委員、伴氏、樋口氏と、この日時は大丈夫だということで、ご内諾をいただいている。ここに当事者の方々も居られるが、よろしくお願ひしたいと思う。
- ・ 司会・進行については、初めての試みで長丁場になるが、第1部、第2部通じて、蟹瀬委員、よろしくお願ひする。
- ・ コアメンバーは今のところ、この日大丈夫とお答えくださった方が井上委員、小川委員、東嶋委員、吉岡委員と居られるが、今日ご参加いただいた岡本委員とか、それから小沢委員はこの日はどうか。

(小沢委員)

- ・ 10月14日はいないと思う。

(木元座長)

- ・ 高木委員その他、今日ご欠席の方々にも伺っているところなので、もう少しふえると思う。岡本委員のスケジュールはいかがか。

(岡本委員)

- ・ あけようと思ったらあけられると思う。

(木元座長)

- ・ もしご都合がつけば大変ありがたいと思う。
- ・ 今までではテーマがテーマだったから、その時々で説明者、あるいは関係者の方に来ていただいた。我々の座席の後ろなり、横なりに座っていただき、その都度必要があればご発言いただいたりしたが、今回はいかがか。当事者は東京電力だったから、もしお願ひするとすれば東京電力ということになるか。

(小川委員)

- ・ 先ほど岡本委員の方から、「もしも停電の場合」といった事前の意見とかご質問とか、お聞きしたらどうかというお話があった。お聞きするとして、その中にあまりにも専門的な、だれかがきちんと答えなければいけないというようなものがあつたら、頼んだらよろしいのではないか。ただ、今の段階では私は不要だと思う。

(新井委員)

- ・ 電気の話だから、非常に話が難しくなるので、どなたかいた方がいいんだろうと思う。ただし、前回の敦賀の市民懇のビデオを4時間分ぐらい延々と見させていただいたが、意見表明のような形になると余り愉快でないかもしれないという印象は持った。したがって、事実関係だけ、例えば周波数の話とか系統運用の話とか、そうなったときには、答えようがないから、専門的な回答が必要だ判断した場合に、仕組みとか枠組みのような百科事典的な要素の答ができる人がいないとまずいかと思うものの、しかし、それに乗せて何かの意見表明のようになるとよろしくないと思う。

(碧海委員)

- ・ 私も同意見である。私は以前にもたしか触れたことがあると思うが、電力会社の中央給電指令室に行くと、そこがまさに電気の需要と供給の関係とか、周波数のこととか、いろいろなことがすごく分かるところである。東京電力で説明してくださる方がいらっしゃると思うとすれば、広報の方ではなくて、むしろ給配電とか周波数とか例の融通の問題とか、そういうことについて客観的に説明してくださる人、これはぜひいてもらいたいと思う。
- ・ 今回は本当は、埼玉で開催したいと言ったとき、アプローチを今までと少し変えて、実際に電気を使っている家庭等の側からもう少し見る、あるいは知らないことを少し探っていく、ということを考えていた。電力会社は実は一般の家庭とは、直接はほとんど接触がない。つまり例えば住宅をつくるときに、配電というか、家の中の回路の設計をしたりするのは電力会社ではない。つまり電気工事士とか建築家とか、そういう人が一般市民の相談に乗って、電力会社は、そうして設計されたものを認めるか認めないかという形でしか接触がない。そういう意味で使っている側からの質問なり、いろいろな疑問が出たときに、一体誰が答えるかというのが少し心配である。つまり電力会社の営業とか、お客様窓口とかというのは、お客と直接接触しているようで、実は結構間に距離があると、以前から思っている。

(木元座長)

- ・ 碧海委員が今想定されている、消費者側から質問が出るとすれば、例えば具体的にはどういうものが出ると思われるか。

(碧海委員)

- ・ 質問がどんどん出てくるくらいなら良いが、恐らく質問のしようがないくらい知らないのだと思う。回路の問題だって何だって、つまり自分が使っている電気について知らない。

(木元座長)

- ・ 法律的に言うと、電力会社はメーターのところ、ここまでは電力会社の責任で供給してくるが、そこからこっちは自分、自己責任だと聞いている。

(碧海委員)

- ・ 自己責任だが、自分が設計しているかといったら全然してない。

(蟹瀬委員)

- ・ 第1部、第2部と分かれているので、第1部でどういうことを議論して、第2部は、これは参加者から意見を聞くわけだから、アトランダムな話になるだろう。そうすると第1部でどういう流れで話をするかというのを大まかに何か決めておいた方が良い

と思う。

- ・ 電力危機というのをタイトルの中に入れるとした場合に、当然今回の原因をかいつまんだ形で——皆さん新聞とかで読んでいるわけだが——話をしなくてはいけないと思う。それから、実際にこれだけ激しく大停電が起こるという大キャンペーンを張った。しかし、その結果、大停電は起きてない、その裏側の真実のような部分の話をしてもらいたい。それから先ほど出たような、消費地と生産地の意識のギャップのようなもの、さらにはどうやって安定供給をするのかというところで、当然原子力の話になっていくのだと思うが、そこにニューヨーク大停電を少し対比させて、最終的にはエネルギー源の選択を皆さんが一人一人どういう選択をするのかというような、一つの流れのようなものを少しここで議論しておいた方が良いのではないかなと思う。

(木元座長)

- ・ 例えば、なぜ停電しなかったか、と。

(蟹瀬委員)

- ・ 電気がメーターからここまで来ているかとか、そういう話よりも、ということ。

(木元座長)

- ・ 今言われたように第1部の方では、例えばなぜ停電しなかったかという場合に、今回の場合、東京電力が火力発電所を立ち上げたことによって、今後ずっと火力で賄っていけるのではないかなという意見も一方で出ている。そういうことも第1部で議論するのか、そうすると原子力発電は要らないという意見は多分出ると思う。その場合に、どういうやりとりができるのかということが大事である。

(蟹瀬委員)

- ・ 木元座長には釈迦に説法だが、台本としてのテーマ立てが必要だと思う。3つか4つぐらい柱を立てて、それに沿う形で議論を進めていかないと、訳のわからない話になってしまうと思う。

(小沢委員)

- ・ 専門家がいないと今みたいな議論はちょっとできないのではないかな。

(蟹瀬委員)

- ・ 骨を立てると誰が必要かという話に当然なる。それで、技術的なことのアドバイザーが必要であれば、そういう方、ここに今並んでいる方以外に、少しそういう質問に対して答えられる方を横のほうに呼びすると良いと思う。

(木元座長)

- ・ 答えられる方というと、東京電力ということになると思う。

(蟹瀬委員)

- ・ ただ単に技術だけではなくて、技術的なことをわかりやすく説明していただければ、東京電力でも学校の先生でも良いと思う。議論のポイントを3つか4つか決めると良いのではないかな。

(小沢委員)

- ・ そういう、答える人が、パネリストの中にいなくてはまずいのではないかな。

(蟹瀬委員)

- ・ 本来なら、そうだと思う。

(小沢委員)

- ・ 今みたいな話をしたら、伴氏がそういう話をしたとき、伴氏と誰が議論するのか。

(蟹瀬委員)

- ・ そこが難しいと思う。

(木元座長)

- ・ 新井委員も議論できるだろう。停電なしで乗り切れたと、ただ冷夏だったのでラッキーだったという言い方もあるが、火力をたくことによって、あるいはそれにプラスアルファの自然エネルギーの太陽光、風力を使うことによってカバーできるということを伴氏や、同じ原子力資料情報室の西尾氏が主張されている。そういう議論も1つはあるだろう。火力をずっと使い続けられるのかという論議もあるだろうし、それは碧海委員からも話ができるだろう。CO₂の問題もある。

(蟹瀬委員)

- ・ パネリスト候補の方々を議論する人の前提としてテーマ立てをするのか、あるいはこういうテーマで進めたいということである程度骨を作って、それに沿ってパネリストを補強するのかということだと思う。

(木元座長)

- ・ パネリストの方たちに合わせる必要はないと思う。それぞれが自分で停電が起きなかった、あるいは起きるかもしれないということに対してどうお考えを持っていたのか、どれだけ電力を意識したのかということにかかるだろうと思っている。

(吉岡委員)

- ・ その際の問題は、大きいテーマが決まってないということである。大きいテーマを決めてこそ、小項目が4つなり5つなり立つわけであって、だからそれをここで決めなくてはならないと思う。例えば、安定供給と停電論とでは全く違うアプローチが必要であると考えられる。

(木元座長)

- ・ 停電論から安定供給にも入っていけるだろうと思う。

(吉岡委員)

- ・ 安定供給概念というのは一体何なのかということについては最近、非常に大きな認識の変革が起きていると私は思う。包括的アプローチが必要である。
- ・ 停電論は、東電問題に引きつけて論ずる限り、送電ネットワークといったものとは直接はかわからず、間接的にしかかわからない。その両方をどうつなげるかには幾つかの方法があって、つなげ方自体にある作為が入る。原子力をやろうというふうに誘導するようなつなげ方もあるが、そうでないつなげ方もあり、その辺をどうするか設計図を立てるのはなかなか大変である。

(木元座長)

- ・ それをやり合ったらおもしろい。

(碧海委員)

- ・ 木元座長は樋口氏とよく番組に出ているが、樋口氏はどういうことをおっしゃりそうか。

(木元座長)

- ・ まだはっきり深く、このテーマに対しては関わっていないが、本当に停電になるのかという話をしたときに、この冷夏だったらなり得ないと私は言った。するとではなぜ、

こんなに停電になる、停電になると大騒ぎしたのかという話になった。そこで東京電力の不正記載のことからお話したところ、それは東京電力の責任だから、東京電力がちゃんとやればよく、私たちが振り回されることではないという話になった。その辺りのご理解で止まっていると思う。だから、かなり今回の「停電するかもしれない」ということに関しては疑問を感じている立場ではある。

(小沢委員)

- ・ 冷夏だし、本当は停電しないのではないかというようなことを話したりすると、すぐ電力会社あたりから、反論を言われると聞いた。

(木元座長)

- ・ 一つだけ聞いたのは、ラジオの夕方の番組で、停電の危機というのは東電のやらせだと言った人がいた。それは東電からクレームをつけたというのは聞いている。ラジオで「原子力発電がなくても、全然停電なんか起こりませんよ、あれは煽っているだけです」と言っただけなので、それは事実と違うと。

(井上委員)

- ・ もし、この夏の検証という――大停電は起こらなかったけれども、検証ということであれば、テレビを見て一生懸命心配になったり節電キャンペーンがあったわけだから、協力した人や、省エネというものを本気で考えた人もいれば、もしも火力をたいしたことによって、何とか危機を乗り越えられたとするならば、そこで起こったCO₂の増加は、本当に実質どうだったのかと知りたくなるだろう。「でんき予報」という初めてメディアで新しい方法をとられたわけだが、そのことがきっかけで、いろいろ暮らしをしている者にとっても具体的に何がしか行動を起こしたことは幾つかあると思う。その検証ということはできないだろうか。例えば大企業とか工場が輪番制になったとか、そういうのはきちんと出てくるかもしれないが、暮らしをしている一家庭とか、消費地のあたり、東電管内ですけれども、それで出てきたなにがしか目覚ましい何か、目覚ましい節電効果とか。

(小沢委員)

- ・ 冷夏だったことを考えると、それを言えるか疑問である。

(木元座長)

- ・ 企業は東京電力との契約から、かなり努力したところがあると思う。そのパーセンテージは出ると思う。また、「節電隊」というものが作られて、東京都を初めとして、いろいろなところを回ったと聞いている。

(井上委員)

- ・ 暮らしレベルの者から見て、節電効果が停電回避のようなレベルのところまで何かがあったのか、それとも大した効果もなかったのか。

(竹内原子力委員)

- ・ 節電効果の数字はまとまっているかもしれない。工場などは週末操業を行ったりしていた効果が若干あると思う。CO₂に関する数値は確実にあると思う。CO₂は十何年昔に戻ったと聞いた。ただ、家庭の節電効果に限った数値としては、統計のとりようがないかもしれないと思う。

(碧海委員)

- ・ 今年の電気使用量、東京電力は必ず前年度の使用量と比較して領収書が来る。あれを

見ると、やはり大幅に減っている。

(竹内原子力委員)

- ・ 気候だけのことを言うと、もしヨーロッパのパリみたいな猛暑が東京に来ていたとすると、これは確実にだめだったと思う。私の直感では。

(小沢委員)

- ・ 冷夏にしても、予測はどういうふうにして立てるのか。例えば今年の電力はこのぐらい不足しそうだとか、前年比とか常識的な量があるのだろうが、例えば冷夏とかというのは予測できないのか。

(碧海委員)

- ・ 先ほど中央給電指令室で感動すると言ったのは、つまりそういうことである。電気というのは貯められないから、みんなが使おうと思うと、絶えずそれを予測しながら作らなければいけない。これは非常に難しい仕事だと思う。

(小沢委員)

- ・ お天気は予測したりはしないのか。

(碧海委員)

- ・ もちろん予測する。ありとあらゆる情報をたくさん積み重ねて、予測するのだけれども、それでも突然雷雨になって、大勢がばたばたと明かりをつけるということは、予測できない場合もあるだろう。

(小沢委員)

- ・ 雷雨はそうだが、こんな長期にわたる冷夏というのはどうか。

(竹内原子力委員)

- ・ 気象庁関係の予報もそうだったと思うが、今年ほど予想しにくかったのは10年に1回とか、そんなオーダーだと思う。

(木元座長)

- ・ 逆にヨーロッパみたいに猛暑になっていたら、ちょっと危なかった。

(碧海委員)

- ・ 確かに危なかったと思う。

(東嶋委員)

- ・ 今言われているような議論を、竹内委員かどうか分からないが、電力会社の人からか、あるいは新井委員からか、このパネリストの中のどなたかが、あるいは専門家の方から、先ほど来言っている検証ということで、冷夏だったからこのぐらいの消費量だった、けれどもパリぐらいの猛暑だったらこのぐらいの需要があって停電していたとか、その程度の数字的な検証というのは出していただかないと困ると思う。

(木元座長)

- ・ そうすると、数値を出すとすれば碧海委員になるのではないか。東電にお勤めの経験をお持ちなので。

(碧海委員)

- ・ 私は、そんな細かい数値は出せないが、例えば一般市民レベルで、電気は貯められないから、どういうことが問題なのかということを説明するぐらいのことはできる。電力会社の仕事を20年やったのだから、それはできる。つまり、一般市民サイドでの基本常識みたいなものは説明できるが、細かい数字、例えば気温が1度上がったら、

どれだけ電力消費がふえるとか、そんなことは専門家にきちんと言ってもらわないといけないと思う。

(木元座長)

- ・ 新井委員もいろいろお調べになってお書きになっておられるから、また碧海委員とは違った点で電力消費の形をお話いただけるのではないか。

(新井委員)

- ・ 若干心配なのは、私は何しろ文科系なもので、電気の伝わり方も今もって分からない。ところてん式なのか、あるいは割りばしを運動させるように伝わっているのか、水を少しずつこぼして行って下に伝わるのか、とにかくどう説明しても、私は電気というのが分からない。そういうことがあるから、分かっている人から、そういうところを厳しく聞かれたら、それは答えられない。例えば停電だって、原則として東京では夜の停電は起きないとされていたわけだが、一般的には夜も起きるだろうと、何となく皆さん受けとめていたところがある。そういうところをきちんと説明できる人は、やはり専門家になるだろう。

(木元座長)

- ・ そういう意味からすれば、あるベーシックなところで、碧海委員のご専門、新井委員のご専門でお書きになっておられるもので話せるが、今言われたようなカスケード式に電気が逆流するとか、今回の場合はこうだったということを説明できる人を一人お願いしておく必要はあるということか。

(新井委員)

- ・ 私は何となくそう思う。

(木元座長)

- ・ そういうことで1人、やはり技術的なことを扱ってくれる方をお呼びするか。

(蟹瀬委員)

- ・ あまり理科系でテクニカルな話ではなくて、きちんと説明される方がいらっしゃった方が、良いという気がする。

(竹内原子力委員)

- ・ 東京電力で停電を心配したというのは、原子力発電所が全部停まり、約3割の電気がなかった、4月上旬の話。通常の年は6月の末、7月、8月、異常気象でないときの、通年の負荷カーブ（曲線）というものがある。それで予測するとこれは大変だということで、ああいうキャンペーンをやったのだと思う。全く足りないという予測だった。それで徹底して火力を立ち上げて、立ち上げる予定の無かったものまで立ち上げたと聞いている。それから、緊急調整——緊急時には電気を止めるという契約、これもしゃかりきに協力をお願いしたと聞いている。ところが、気象庁の予報もままならなかったほどの十何年ぶりの非常な冷夏だった。ヨーロッパのことを考えると、もし逆さまだった場合に何が起こったかという心配がある。この場合は、需要に対する供給が足りないわけだから、計画的にも読めると思う。ニューヨークのように、突然の停電にはならなかったと思う。
- ・ ニューヨークで大停電があったために、一般の方の質問はごちゃごちゃに来ると思う。その辺を仕分けしないと、何を議論しているか分からなくなる可能性がある。東京電力に頼めば、その辺を仕分けできる人がいると思うが、なかなか難しいだろう。新井

委員が言われたように、電力系統の話はとても分かりにくい。

(碧海委員)

- ・ 私が東電にいたときに、2年間の任期で「サービス懇談会」をやっていたが、その活動の中で、必ずやったのが先ほど言った中央給電指令所の見学と、あわせてそのときに配電関係の専門家の話を聞くということだった。それをやると、いわゆる電気の需給のことは大体理解できる。だから、電力会社から出ていただくとしたら、私はその辺のところの方が良いのではないかなと思う。

(木元座長)

- ・ こちらで調べるが、そういうことを具体的にやっている方で、お話いただける方をお願いすることは可能かなと思う。
- ・ 先ほど蟹瀬委員が言われた、第1部で柱を立てようという議論に戻りたい。先ほど一番最初に言われたように、なぜこういう事態になったのかという原因は討論しなければいけない、話さなければいけない、ということか。

(蟹瀬委員)

- ・ 討論というより、議論のベースとして、そこからスタートして行くべきかなと思う。

(木元座長)

- ・ それは蟹瀬委員がお話された方が良いかもしれない。
- ・ こちらに資料があるから、それは揃える。

(小沢委員)

- ・ もし大停電になっていたら人災、全くの人災だったと言えると思う。東京電力の不正記載が原因で始まったのだから、探れば探るほど、そこに行きつくから、そういう話になってくと思う。
- ・ 私が保安院の説明会であちこちへ行っているころ、既に冷夏だったと思う。確か、7月の半ばぐらい。あの頃には冷夏予想は立たなかったのか。批判派がヤラセではないかと言うのは、あの時点での予想を全然電力会社は加味しないのかということなのではないか。今年はもしかしたら、あまり電力を使わずに済むのではないかなという予想は、どこかの時点で立つと思う。

(木元座長)

- ・ ここまで来たからもう間に合う、ここで、という時点があったはずではある。しかし、一方で古い火力発電所を動かしていたから、修理等が必要になってきた。そうすると、やはり原子力発電所を立ち上げた方が良いという声も出てきたということだろう。

(小沢委員)

- ・ そうなると、だまされたような気がする。

(碧海委員)

- ・ 冷夏であってもある日突然に気温が上がればやはり停電の恐れはあると思う。だから、幾ら涼しい日が続いていても、ある日突然にバーンと気温が上がったら、それはやはり駄目だということだろう。

(小沢委員)

- ・ 今日などは涼しい。そういう疑問は、やはり素人なら持つと思う。

(蟹瀬委員)

- ・ 市民参加懇談会で、そういう議論をすれば良いだろう。

(木元座長)

- ・ 議論の中で検証していけるかもしれない。

(吉岡委員)

- ・ 整理したがるので、どうも男は性急過ぎると言われるが、整理させていただきたい。議論の主要項目は何かというと、できるだけ広くとれば3つあると思う。1つは、需要のピーク問題である。これを主要項目にして、さらにその下に幾つか小項目を組んでいくということが可能であり、そこには気候と電力消費との関係だとか、ピークを下げるために一体何が可能で、それによってどれだけ経済的な利益を生むかとか、諸々の問題が本当に危ないというのはどういう状態なのかとか、そういった形で需要ピーク問題を集中して扱うというのが一つの手法である。
- ・ もう一つの主要項目は、系統安定問題である。さらにもう一つ、エネルギーセキュリティの概念自体について、昔の認識と今の認識がかなり変わってきて、今の認識は一体どういうものなのかということを、割と理屈っぽく議論するというのが第3のテーマである。そういう第3のテーマは私が好きなところだが。

(木元座長)

- ・ あまり理屈っぽいと、一般参加の方がしらけてしまうときがある。そこをうまくやらなくてはいけない。

(小沢委員)

- ・ 先ほど碧海委員が、電気使用のピークというようなことを言われたが、ピークが来ないように企業や何かがあんなに節電したと聞いている。

(木元座長)

- ・ 負荷平準化などと言って、電力需要をフラットにしようというものだったと思う。そのためにフレックスタイムを導入してみたり、工場の作業時間を工夫してピークの辺りを下げてみたりということで、フラットにしたということがあったと聞いている。

(小沢委員)

- ・ それに予想もつかないものがあるということでは、もう何をやったって同じことである。それは変だと思う。

(碧海委員)

- ・ 電力会社は、普通の会社よりも、人間の生活の仕方、暮らし方、これに対してはすごく詳しい人たちがいる。つまり、それがわからなければ電気は送れないわけだから。

(小沢委員)

- ・ 新井委員は夜の停電はないと言われたが、昼間の停電が大きかったら夜まで響いてしまい、結局夜も停電ということはあるのではないか。

(新井委員)

- ・ 今回の問題の中で夜考えられる停電はないと言っただけである。

(木元座長)

- ・ 新井委員が言われる根拠というのは、夜は家庭を含めて電気の消費量が少ないことである。昼間はやはり工場を使う、産業界を使うということで、消費量が多い。

(小沢委員)

- ・ それは分かるが、昼パンクしたら、夜の停電にも響くだろう。昼間もしパンクしたら、昼間だけで終わるという問題ではない。

(碧海委員)

- ・それは響くだろう。響く場合もある。確かに。

(小沢委員)

- ・だから停電というものをどういうふうに……どこからどういうふうに話すかで、非常におもしろくなると思う。

(木元座長)

- ・岡本委員、お聞きになっていて、どういう筋道が良いと思われるか。

(岡本委員)

- ・あまり理科系の話を難しくしない方が良いと思っている。それはどうしてかという、それを知っても消費者の方はどうにもできない。つまり、全体として見ると、こういう考え方は危険な考え方かもしれないが、社会的な需要——原子力等々に関するアクセプタンス——社会需要を設計するような発想が要るわけである。
- ・系統の話とか、そういう話は埼玉でしても、仕方がない。それは事業者側の責任でやっていることだし、今のところ別に大きな問題は起こっていないのだから、そういう意味で、そこはあまり重視しなくても良いような気がする。

(小沢委員)

- ・今ここで言っていたような、「本当は停電しなかったんじゃないですか」というようなことの方が、皆さん関心は持つと思う。

(岡本委員)

- ・私は、どうしてテレビか何かで、今回のいろいろな節電の、産業側の努力をきちんとまとめたドキュメンタリーを作ってくれないのかなということは少し思う。
- ・もちろん事業者側として瑕疵があったのは東電で、それは動かないことだが、同情の余地がないわけではないというか、社会学者から見ると、社会全体の動きがついていないということがある。まず維持基準が整備されていないかったということは、見逃しにくいことである。それから同様に、例えば水中溶接だったか、その辺の認可の作業等が遅れたということが、やはり難しいことである。また、一番最初の問題が起こっているのは、たしか1989年あたりだが、今、日本の産業のいろいろな倫理基準が物すごく変わってきている。2001年、2002年の水準から見たら、こんな問題を伏せてしまったのかという、びっくりするようなことだが、あの当時としては、敢えて言えば他の産業だったら幾らでもやっていたことではないかと思う。だから良いというわけではないが、結局原子力というものが、市民の感覚から見ると、従来からある種タブー視かつ聖域化されてきたという、残念な歴史のようなものがあるから、オープンに議論しにくかった環境があったわけである。その環境を作っていたということに関しては、マスコミも含めて、やはり社会全体の、もちろん行政もあるが、社会全体の関与ということもあるわけなので、法的には東電が措置を受けているわけだが、だからといって東電、東電と言うのもどうかと思う。むしろ聞いていると、消費者は電気を作っている側の苦勞を知らないで使っているような感じがする。

(小沢委員)

- ・今いわれたようなことは承知の上で、なおかつ何故そうなるんだといつも言っている。問題がいろいろあって、一生懸命取り組んでいて、あるところまでいくとバケツがひっくり返ったり、あるところまで、またいろいろな努力して、しかし今言ったような

お話をしてくれて、あるところまでいくと不正記載。こんなことやらなくたって、もしひびが入ってしまっていて、本当にひびが入っているのが分からなかったというのなら、幾らでも今みたいな話はできるが、どうしてそういうことをするのかというのが理解できない。市民的立場でいうと、多々異論はあるけれども、私は日本のエネルギーというのはもっと自立すべきだと思っているから、先進国として、このままこういう生活をやっていくのなら、リスクも背負うべきだと思っているし、だから絵にかいたようなことを言って責めたてようとは思っていない。だけれども、私はもうここまで近づいて、こういうことをやっている人間だから、東電の言うことをかばったりヨイショしたり、余計な説明をしたりすることはむしろしたくない。文句を言う側に居たい。

(木元座長)

- ・ 岡本委員の言われるのはそのとおりだと思うし、また東電の肩を持つ、持たないのレベルではなくて、事実としてあったことだから、1989年のことからずっとたどってみると、いろいろなものが見えてくる。あのときに、ひびは入っているけれども安全だから使うと言えよよかった、ということは今だから言えることである。当時は使うと言ってしまったら、今度は資源エネルギー庁の立場でルールがないから、では取り替えてくれ、30億かけて取り替えてくれと言わざるを得ない。そのように双方が言いにくい状況というものがあつたのではないかと思う。
- ・ これは今後の問題としては取り上げたいと思う。今回はそれは抜きにしたい。

(碧海委員)

- ・ パネリスト候補に少し注文つけさせて欲しい。というのは、私は以前、蟹瀬委員の番組に出させていただいたとおり、例えば省エネルギー等は確かに相当深く関わってきた。もう一つは、電力会社で一般の方とのパイプ役の仕事をしていたから、一般のお客に対してどういうことをどう説明すべきかというようなことについてはお話しできる。しかし、今回の市民参加懇談会のパネリストとして、本当に私がふさわしいかどうかというのは、先ほどから少し疑問を持っている。私自身は電気あるいは省エネルギーといったようなことについては、相当深く思いを持っているから、それが逆に合わなければ、一般の市民側としては、樋口氏をお呼びしているし、新井委員もいらっしゃるから、必ずしも私は出なくても良いと思っている。十分蟹瀬委員と木元座長の方で相談していただいて、決して私を候補にしたからといって、無理やりこういうことをしゃべってくださいというには考えないでいただきたいと思う。

(木元座長)

- ・ 碧海委員がいないと話ができないと思うのは、消費者のレベルから考えたときに、我が家は幾ら電力を使って、何アンペア来ているのだろうか、先ほど言ったようなことを知らない人が多い。その中で、どうやって電気が来て、どうやって私たちは消費して、その状況をみながら中央給電指令室が供給指令をしているということを知っている人は、碧海委員しかいない。

(碧海委員)

- ・ そういうことに関しては、電力会社の仕事をする前から私は結構電気には興味を持っていた。家庭人としては恐らく、あるいは女性としては相当に電気については詳しい方だと思う。しかし、一般の市民は知らなくて当然である。教えられる場もないのだ

から。そういう話が必要なら私は出るが、そうでなく、もっと大所高所の話なら、私は出なくても良いと思っているので、その辺十分ご検討いただきたい。

(小川委員)

- ・ 碧海委員がコアメンバーとして発言されても良いのではないかと思うので、パネリストは、時間的に考えても3人で良いのではないか。

(碧海委員)

- ・ 私は、コアメンバーは基本的には発言しないと思っているので、その辺は相談いただいた上で割り切ってほしいと思う。

(小川委員)

- ・ 前回の敦賀開催は参加できなかったのが分からないが、前々回の青森開催のときは、コアメンバーがほとんど発言しなくて、それも少しおかしいのではないかということで、第2部ではコアメンバーも議論に加わるようになったように記憶している。

(木元座長)

- ・ 必要とあれば、第2部でご質問が出たときの対応とか、それに対してのご意見とかということではコアメンバーも議論に加わったが、問題提起の場としての第1部では発言できない。それで4人ということをお願いしようと考えた。

(小沢委員)

- ・ パネリスト4人は多い。3人ぐらいで良いのではないか。碧海委員が言われていることは正しいと思う。

(碧海委員)

- ・ 樋口氏が出られるなら、彼女はその辺のところを結構勉強して来られると思う。

(木元座長)

- ・ 今ご提案があった、パネリストは3人で良いのではないかという案はいかがか。

(吉岡委員)

- ・ 私は賛成である。最初に基本的な説明をしてくれる人から、簡単なレクチャーを15分位、今回の需要ピーク問題に関わる諸々のこと、例えばフランスではどうだったかとか、イタリアではどうだったか等も含めて、なぜ需要ピーク問題が重要なのか、ある程度プロの人に――竹内原子力委員でもよろしいと思うが――やっていただいて、その後で3人のパネリストがそれも踏まえる形で議論されると、フロアにとっても親切ではないかと思う。

(木元座長)

- ・ 冒頭から重くならないかという気がする。

(小川委員)

- ・ それなら、その人がパネリストに入れば良いと思う。

(吉岡委員)

- ・ また4人になってしまう。

(小川委員)

- ・ 同じことではないかという気がする。先ほど、岡本委員も言われたように、そんなに技術的な細かい問題というのは、市民参加懇談会では入り込まなくても良いのではないかと思う。

(吉岡委員)

- ・ いや、そうではなく、プロならばわかりやすい話もできると思う。プロでなければやはり無理である。フランスの需給がどうだとか、そこまでは。

(碧海委員)

- ・ 私が先ほど言った電力会社という意味は、決してそんな専門的な、技術的な話をしてもらうということではない。「常識の範囲で分かっていないと」というところである。先ほどどなたかが、今年の一般家庭の節電の効果はあったのかとお話されたが、例えば省エネルギーとか節電も、いわゆる需要のピークの問題とか、「フタコブらくだ」とか、そういったこと等との関連なしに、ただ節電したってしょうがない。だから、そういう基本をきっちり説明できる人がいれば良いと思う。

(小川委員)

- ・ それは、新井委員にやっていただければよろしいのではないかと思います。

(小沢委員)

- ・ 「電気が消える」、「停電」というと、皆さん碧海委員のように主婦的に、あるいは生活的、女性的に、エアコンがつかないとか電気釜でご飯が炊けないとかいう問題として考えるだろうと思う。しかし、停電が大都市に及ぼす影響は、そうではないだろう。コンピューターの問題とかエレベーターも問題になる。私は先の大停電のときニューヨークに行ったが、古いビルのエレベーター等は動かなくなって、人が閉じ込められたりしたと聞いた。エレベーターによっては1週間は多分停まっていた。そういったいろいろな問題があると思う。だから、停電をテーマとするのなら、今日日本で停電が起こったらどうなるのかというのは、やはりきちんと考えておかないといけないと思う。ただ単に、電力のピークに使ったら停電が起きたということだけでなく、その実態、つまり、皆さんが持っているファクスが使えなくなるとか、ありとあらゆることにどういう影響を持つのかと。

(木元座長)

- ・ 技術論的なこと、法的なことではなく、実感として消費者が関知できること、停電、電力危機がもたらしたことの一つに、消費者のエネルギーに対する意識が啓蒙されたことがある。私がとてもおもしろかったのは、ニューヨークの大停電のときに、ブッシュ大統領がテキサスかどこかにいて、「まるでウエイクアップコールのようだった」と言ったと聞いた。それは単なる目覚ましではなく、警鐘を鳴らしたという意味で、「危機感をもっと持って欲しい。エネルギー法を自分は作ったが、そこでこう書いたではないか」ということだった。それと同じように、エネルギー問題に対する消費者の意識が第1部で語られてくれれば、次へのステップができやすいのではないかと思います。
- ・ 先ほど、岡本委員が言われたことで、非常に関心を持ったのは、「社会需要を設計する発想」という言葉である。社会需要は、誰が設計するか、誰がそれを形作るかといったら、消費者だろう。

(岡本委員)

- ・ 最終的にはそうだろう。

(木元座長)

- ・ そういうところまで話の中に出てくれば、なかなかおもしろいだろうと思う。我々の国とか事業者とかが、供給責任を負うのではなくて、需要者側としての責任のような

ものが問われるかもしれない。そうなってくると、非常に建設的なエネルギー意識が持てるような気がする。

(小沢委員)

- ・ いや、そうだろうか。それはやはり、もっと自由化とか何かが進んでいないと、そんなにパラレルではないと思う。議論がそこにすぐ行くとは思えない。

(木元座長)

- ・ 自由化のような、多くのファクターがからむとしても、需要があるから供給があるので、結果としてそうなるのではないかということ。

(小沢委員)

- ・ それは今議論する内容ではない。

(木元座長)

- ・ 冒頭からそう問いかけるわけではない。究極の結果としてはそうなのではないかなと考えている。

(小沢委員)

- ・ 今の時点でそういう仕組みになっているとは思えない。

(新井委員)

- ・ こういうことをやる場合に、難しいのだろうが、聞いてくれる人たちのレベルをどう推定するのかということ失礼だが、それによって随分違ふだろうと思う。あまり電気のことを分からないということを前提にしたら、確かに電気が貯められない等というのは本当に分かっているようで分かっていないことで、カリフォルニアの電力危機のときにも、ニューヨークタイムズか何かが、「我々が分かった単純な事実というのは、電気が貯められないという単純なことだった」と表現した。私は先月記者をやめたばかりなので、まだ同僚が現役で、恥ずかしい話だが、その半分ぐらいの人が電気は貯められると思っている。どこかに貯めてあって、それが来ていると思っている。新聞記者というレベルでもそうなのだから、一般の人たちをどう見るかで随分違ってくると思う。その意味ではあまり難しく考えないで、大枠で説明ができる範囲で良いのかもしれない。

(木元座長)

- ・ どなたかお願いすることになると思う。お1人かお2人か分からないが、その場合は事業者の立場になると思う。パネリストは3人にする、あるいは4人でいくかということも預からせていただきたい。
- ・ 参加募集をするときに、意見をいただくかというのは意見をいただくことにしたい。岡本委員からご提案もあったが、「もしも停電が起きたらどうだったか」というのも聞いてみたい。幾つか設問の案を作成して伺ってみることにする。

(2) 次々回の市民参加懇談会の開催について

○事務局より、資料市懇第13-2号について説明。

(木元座長)

- ・ 今、どこがいいということはなかなか決められないと思うが、例えば今ここでこういう問題が起こってくる、ここが良いのではないかというご意見があれば、ぜひおっしゃっていただきたいと思う。

(小沢委員)

- ・ 静岡はいかがか。

(木元座長)

- ・ 静岡も一時、案が出たことがある。

(小沢委員)

- ・ 静岡県で、ちょうど良いところはないか。消費もあれば話もできるところ。

(小川委員)

- ・ 静岡市と浜岡町は全然感じが違うと思う。

(木元座長)

- ・ 浜岡町なら、どういうテーマか。

(小川委員)

- ・ 防災等だと思う。

(松田委員)

- ・ 静岡だ、浜岡だとかにこだわらずに、静岡県はおもしろいかもしれないと思う。

(吉岡委員)

- ・ コアメンバーではそういう原子力防災に適切な人が少なくて、地震学者が必要だし、浜岡原発もいろいろトラブルがあったので技術専門家も必要だし、そういう人と私たちとの間がどのようにつながるか、私たちがどういう議論をそういう人たちに混じってできるのかというのは、そんなに簡単な問題ではないと思う。

(木元座長)

- ・ 簡単ではないと言って敬遠することもないので、やるとすれば、方法をお互いに考えることにしたい。

(岡本委員)

- ・ 東海村とか那珂町はいかがか。

(木元座長)

- ・ 茨城県東海村。テーマは何か。

(岡本委員)

- ・ やはり「ＪＣＯ事故から数年経ってみて」。

(木元座長)

- ・ 防災安全か。

(岡本委員)

- ・ 防災だけではなく、あそこの場合、町の住み心地とか、結構問題の範囲が広いと思う。

(木元座長)

- ・ そうすると、敦賀でやったように原子力と共生するということをベースに置くような感じか。

(岡本委員)

- ・ 世論調査をしたが、ＪＣＯ事故の後でも、ひどく肯定的だった。いろいろと聞き取りなどしてみても、基本的にあの町の性格のために、自分たちが潤っているという認識が随分強い。率直に言って違和感を覚える方が強い。そういったところを見ても良いのではないかという感じはする。

(小川委員)

- ・ 東海村の方で行事をやりたいと思って、昨日も東海に行ったが、あまりにも原子力事業者が多いので、いろいろなことを次から次へと、ましてや秋は非常に多い。もう辟易しているというのが住民の方々の感触だった。東海村というのは年がら年じゅう原子力関係の行事が多いところで、かなり厳しいかと思う。

(小沢委員)

- ・ 東海村は当面やらなくて良いと思う。

(木元座長)

- ・ また事務局の方からご連絡させていただくことにしたい。今回は、パネリストを3人にするか4人にするか等、まだ決定されていないが、碧海委員のご意見もあり、皆様方のご意見もベースに置きながら考えさせていただこうと思うので、決定はこちらにさせていただければとありがたいと思う。よろしくお願いします。

○本日の議論を踏まえて、事務局で市民参加懇談会の開催計画案を作成し、後日、FAX等で各委員にご意見を伺うこととなった。

以 上